

〈バートホンブルグ成人学校 (ドイツ)〉

(V o l k s H o c h S h u l e B a d H o m b u r g)

=フランクフルト=

ドイツの商業、産業の中心地で、国際金融都市でもあるフランクフルトは、中世から見本市都市として知られ、現在は多くの国際見本市が開かれている。文豪ゲーテが生まれた町としても知られている。

世界の銀行のビルが立ち並ぶことから、バンクフルト、高層建築のビルが並びメイン河が中心にあることからマンハッタンをもじってメインハッタンなどと呼ばれている。

戦禍により中世からの建物は大半が壊れてしまい、旧市庁舎R o m e r (レーマー)と、かつて神聖ローマ帝国皇帝の戴冠式が行なわれた、大聖堂D o m (ドーム)、ニコライ教会のある広場だけが、中世の町並みをわずかに残している。

この周辺に残る150年位前に建てられた大邸宅は、文化財として指定されているものが多く、勝手に形を変えることはできない。改修して銀行になったりしているが、高くついても、建てなおさず、外壁をそっくり残し内側のみ直したり、新しく建てたビルには、外壁に自然石を貼るなどして、街の景観を大切にしている。また、気流を考えて都市計画がされ、山からの空気を遮るような高層ビルは建てないのだそうだ。

老人ホームに入るには、一軒家は没収され、死ぬまでにそのお金が使いきれないと、親族に返すようなシステムになっているとのこと。物価は高く、庶民向けの商店は郊外にはずれないとない。以前は土日休み、夕方4時頃までしか開いていなかったが、女性の就業が増えたため、開店時間はのびて、月1回は土曜日でも開くようになったそうである。

=ドイツの成人教育=

ドイツでは、産業革命の時代から大人の教育が始まった。政治的な背景で、民主主義化、労働者の政治教育から始まったものである。

1945年にアメリカ、フランス、イギリスの連合軍が、民主主義を学校で教えたことが成人学校の始まりであるが、現在は政治的教育は見受けられず、まったくの自由な参加である。

ドイツ国内全体をみると、約1000の国民学校(Volks HochShule=VHS)があり、大きなVHSは支部をもち、その支部は全国で4600を数えている。

年間約800万人の人々がドイツ全体のVHSで学んでおり、大都市では独自の施設を持っているが、地方では学校や公共施設を借用してVHSを開設しているところもある。

こうした格差は、教育は州の問題であり、州によってVHSへの力の入れ方が違うこと

に起因している。経費は、州政府が3分の1を負担し、地方公共団体が3分の1、残り3分の1を受講者が負担している。

人口5万人以上の町には成人学校を創ることが、法律で義務づけられておりヘッセン州には33の成人学校があり、そのうち25は自治体の一部として運営され8は独立協会として町や自治体から委託されている。

=バートホンブルグ国民学校（VHS）=

さて、フランクフルトから、車で50分ほどの、ヘッセン州バートホンブルグ町は、人口約52000人ほどのきれいな都市で、かつては伯爵が住み湯治場として栄えた。現在もクアハウスや、お風呂用品の店が多く目につく。

1949年に設立されたバートホンブルグVHSは、町が建設し、運営を協会に委託している。

1年間を前期、後期にわけてプログラムを企画している。

昨年は1130コースを実施。

周辺のコミュニティからの参加者もあり、昨年の利用者は16083人にのぼった。

受講料は、講座によって異なり、語学は45分間で3マルク25ペニヒ（約250円）コンピューターのクラスは1H560円くらい。参加者の人数によっても変る。

ドイツも財政困難で補助金がへり、受講者の負担が増えてしまったが、バートホンブルグでは、ものを習いたい人はそれに見合った金を払うべきと思う人が多く、参加者が多いので、個々の負担は手頃な金額となっている。

VHSは成人（法的には18才以上）のためにあるが、16才ぐらいから参加しているし、ここでは子どものためのスペシャルコースもあり、音楽などは個人授業もしている。

私たちが訪問したときには、二人でケーナを習っている女性と、一人でドラムを習っている青年がいた。

このVHSは、町で成人教育に興味のある人は20マルク（400円）を払えば誰でも役員選出の会議に出席することができ、その中から選ばれた4人と、理事長である市長、そして自治体からの4人、合わせて9人で運営委員会が開かれている。

施設は町で維持管理、その他は補助金や収益の中から自由に器材等の購入ができる。

講師の謝礼は1Hで30マルク（2100円）これで生計をたてることは不可能なので、みな他に職業を持っている人たちである。大人の教育に、これ以上の謝礼は出さないといいことが徹底しているので、ボランティア精神と熱意のある人でなければ、成人学校の講師はできないそうだ。

講座等のオーガナイザーに特に資格はないが、大学出でなければならない。あとは、お

金儲けのためにやろうという講師はいないので、やりたいと申し出てくれれば内容を話し合いながら新しいものも取り入れているのだそうだ。

=具体的な運営方法=

・周知…年2回のプログラム改編時に、250ページもの講座案内の冊子を歩行者天国などで配布したり、銀行、市役所にも置く、FMで宣伝する。報道機関にカンファレンスするなど。

・子どもをもつ女性に対しての方策…現在は、なし。クラスの中に一緒に連れて受講している。キンダーガートンをつくりたいが、財政的に困難。

・障害者に対して…以前は車椅子専用の送迎バスを出していたが、現在はなし。
しかし設備はあるので、障害者の参加もある。

・青年層に対して…ドイツの職業は、見習い制が多く（415種）学習にくる人は少ない。自由意志に基づく参加だしコストもかかるので。

・講座の方針は…職業教育と、趣味の両方。職業教育に関しては、職業専門学校の方が経営が楽。労働組合や教会でも成人教育をしているので、すべてを取り入れようとしなくてもいい。

・今後の課題…財政困難が最大の課題。もっといろいろな講座をやったり、設備を整えたい。コンピュータールームを持つ学校を借りたいが、光熱費の関係で、学校も貸したがらない。

施設としては、16部屋があり、コンピュータールームや防音設備の整った音楽室も2つあるのだが、夜はフル回転だそうだ。

2階の廊下には、自由に使える図書コーナーもあり、当日は外国人労働者が受講の相談に来ていた。

お話をしてくださった、校長の Alfred Schlager さんは、日本の公民館の現状にも興味を持って、無料で学習できる状態がこのまま進むことを願っていると、言ってくださった。

通訳は Ms Ingeborg Emi Schmaltz